

## 国重文 白山宮 本殿

五箇山の上梨にある白山宮は、奈良時代（710-794）初期からの長い歴史を持つ神社です。最初は人形山に建立され、1125年に現在の場所に移されました。現在の本殿は1502年に再建されたもので、富山県で最古の木造建築物であり、国の重要文化財に指定されています。本殿は鞘堂と呼ばれる茅葺き屋根の建物の中にあり、この地域の厳しい気候から守られています。鞘堂の屋根と構造は、この地域の合掌造り（急勾配の茅葺き屋根の家屋）建築と似ています。

本宮は普段は一般公開されていませんが、秋に開催されるこきりこ祭りの開催中は少しだけ見ることができます。毎年9月25日と26日に開かれるこの祭りでは、豊作を祝うために、長い歴史を持つ『こきりこ節』をはじめとする五箇山の様々な民謡が演奏されます。伝統的な演奏は五箇山と上梨の村に代々伝えられてきたもので、ささらなどの土着の民俗楽器を演奏するのが特徴です。

本殿に祀られている御神体は33年に1度だけ一般に公開されます。最近の一般公開は2019年の5月で、2日間公開されました。境内は多くの大木と豊かな緑に囲まれており、心休まる散策の場となっています。